

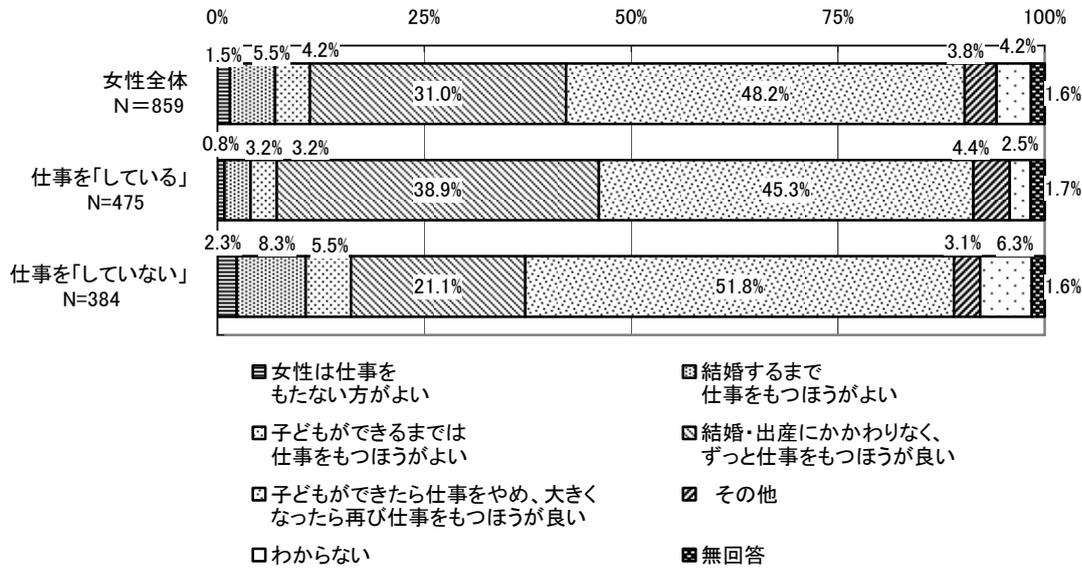
第7章 岸和田市の女性と仕事

(1) 岸和田市の女性の就業意識 (問8)

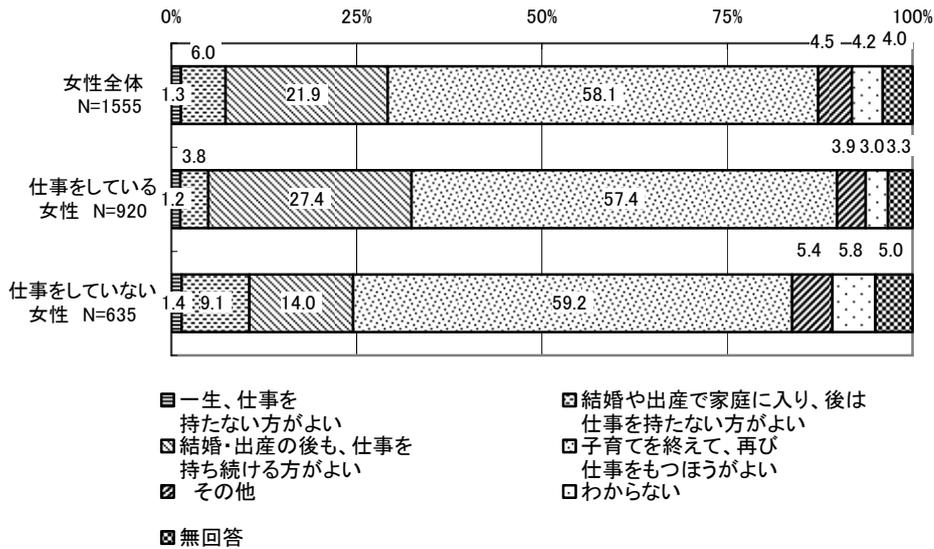
□「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ」が2割から3割に増加

「一般的に女性が仕事をもつこと」について、全体では「子育て後再就職」(58.1%→48.2%)が最多であるが、95年より9.9ポイント減少している。次いで「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ」(21.9%→31.0%)は、95年より9.1ポイント増えている。現在仕事をしていても、いなくても「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ」が好ましいとする女性が増えている。仕事の有無別にみると、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ」は仕事を「している」では11.5ポイント(27.4%→38.9%)、仕事を「していない」では7.1ポイント(14.0%→21.1%)増えている。

就業意識



95年女性と仕事のかかわり

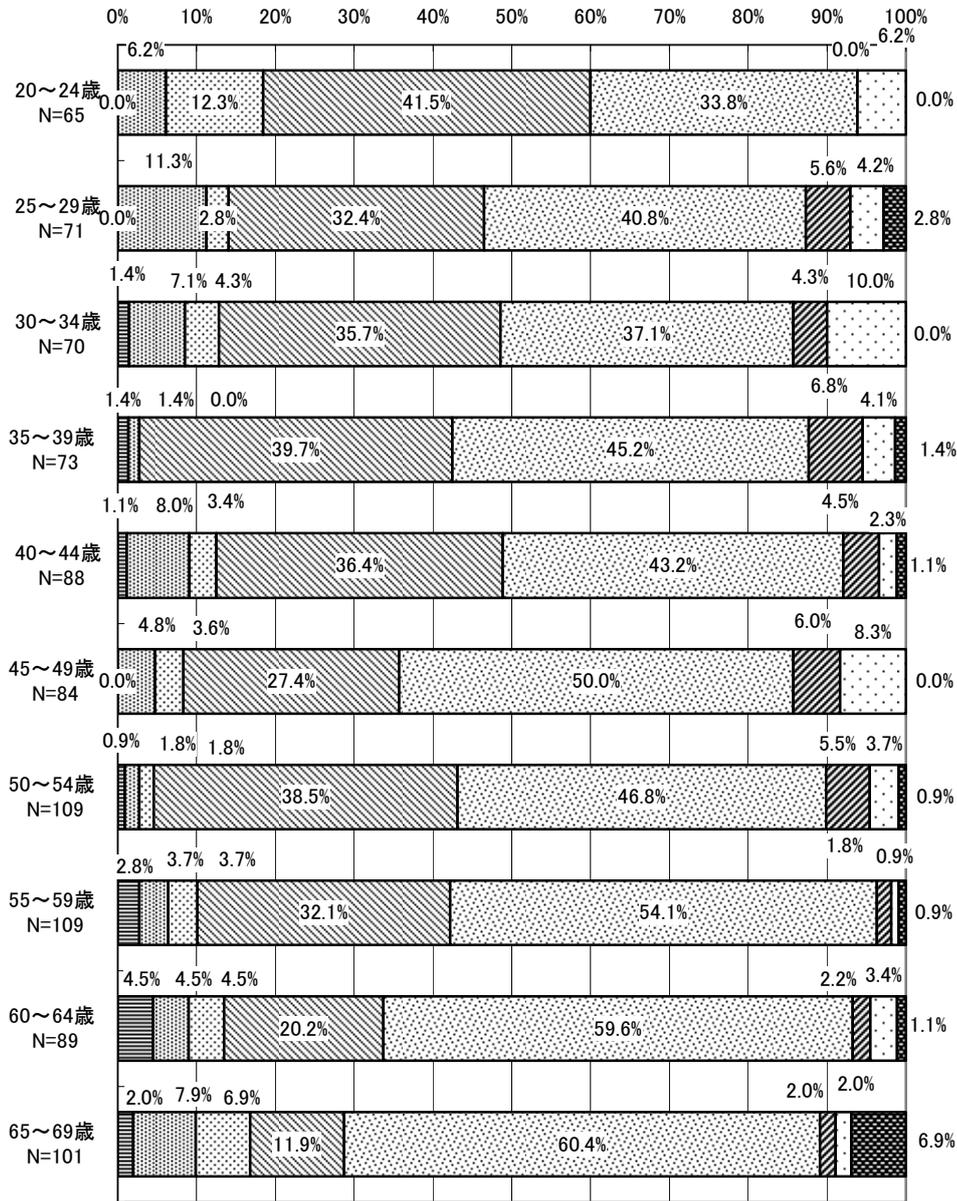


□「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ」は、20代前半で最多

年齢層別にみると、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ」は、20代前半で最も多く、その後はほぼ30%台で推移し、60代前半で20.2%と減少し60代後半（11.9%）で最少となる。

「子どもができたら仕事をやめ大きくなったら再び仕事をもつほうがよい」は20代後半以降は全ての年代において最も多く、M字型就労の根拠となる考え方がここに現れている。

年齢層別就業意識

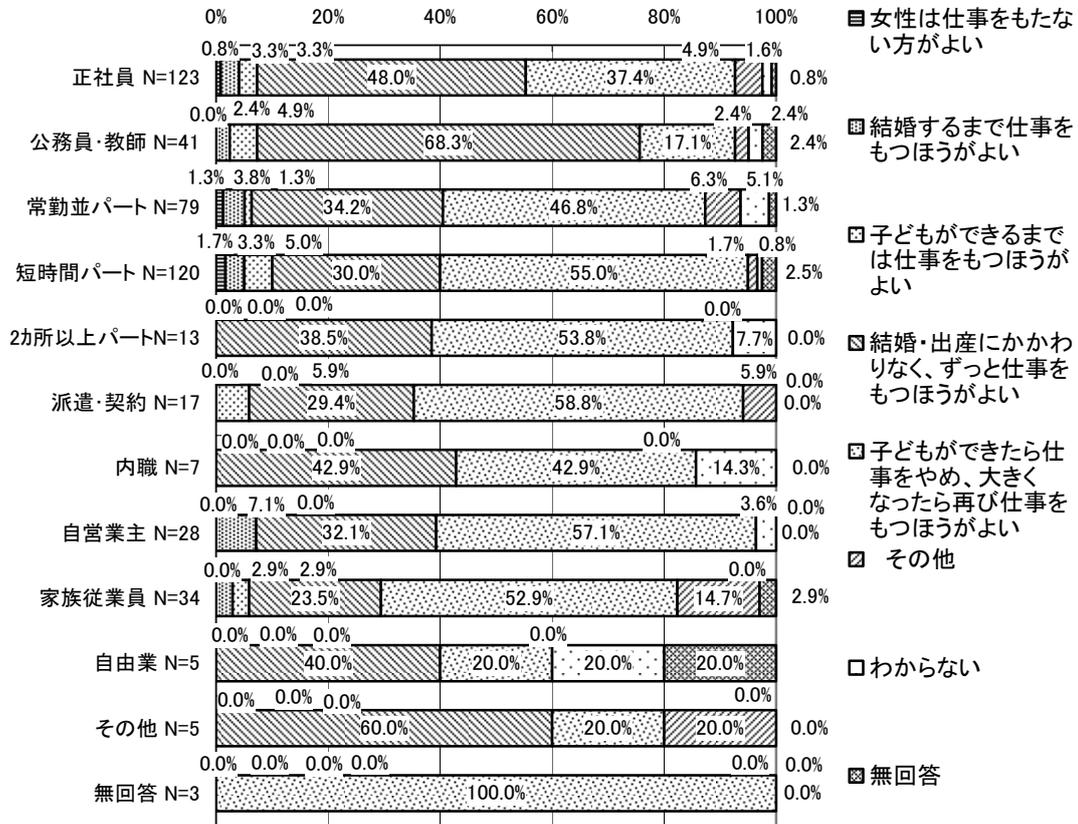


- 女性には仕事をもたない方がよい
- ▣ 結婚するまで仕事をもつほうがよい
- ▤ 子どもができるまでは仕事をもつほうがよい
- ▥ 結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつほうがよい
- ▦ 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつほうがよい
- ▧ その他
- わからない
- 無回答

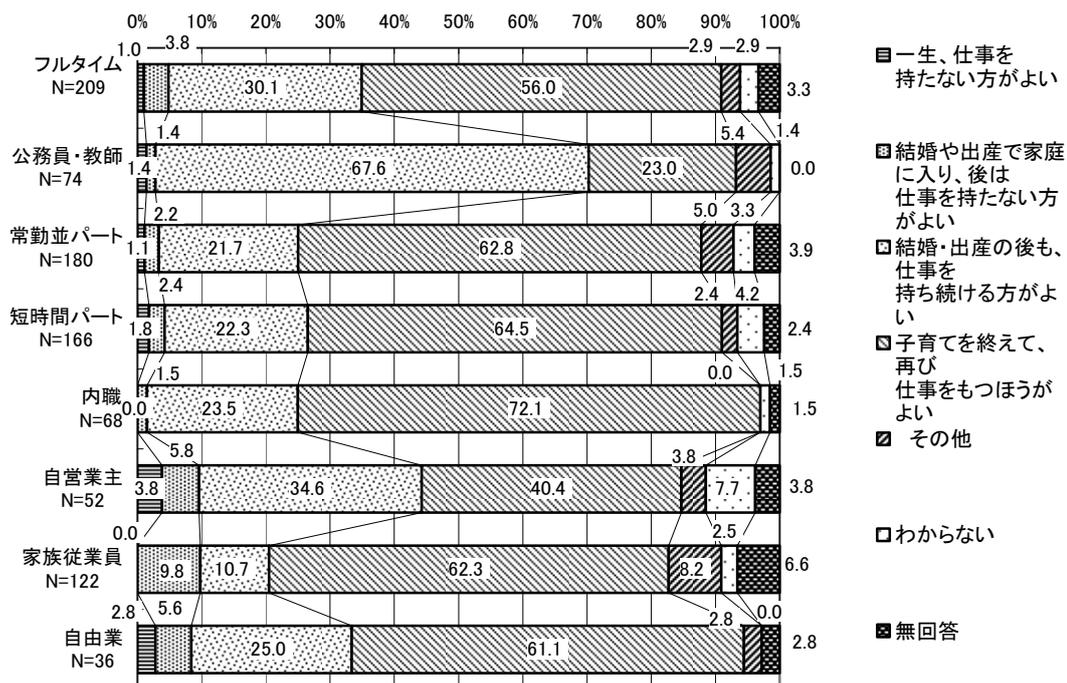
□「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ」は「公務員・教師」「正社員」

就業形態別にみると「子育て後再就職」が多いのは、「派遣・契約」(58.8%)「自営業主」(40.4%→57.1%)「短時間パート」(64.5%→55.0%)である。「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ」が多いのは「公務員・教師」(67.6%→68.3%)「正社員」(30.1%→48.0%)「常勤並パート」(21.7%→34.2%)である。

就業形態別就業意識



95年就業形態別「女性と仕事のかかわり」



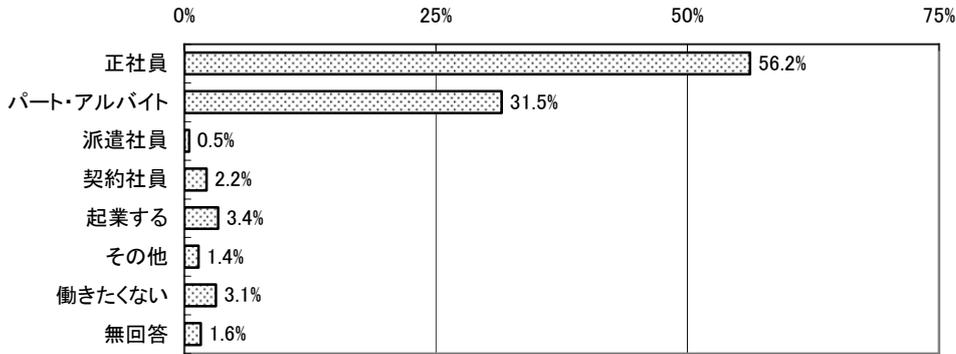
(2) 望ましい働き方 (問 9)

□「正社員」希望が過半数

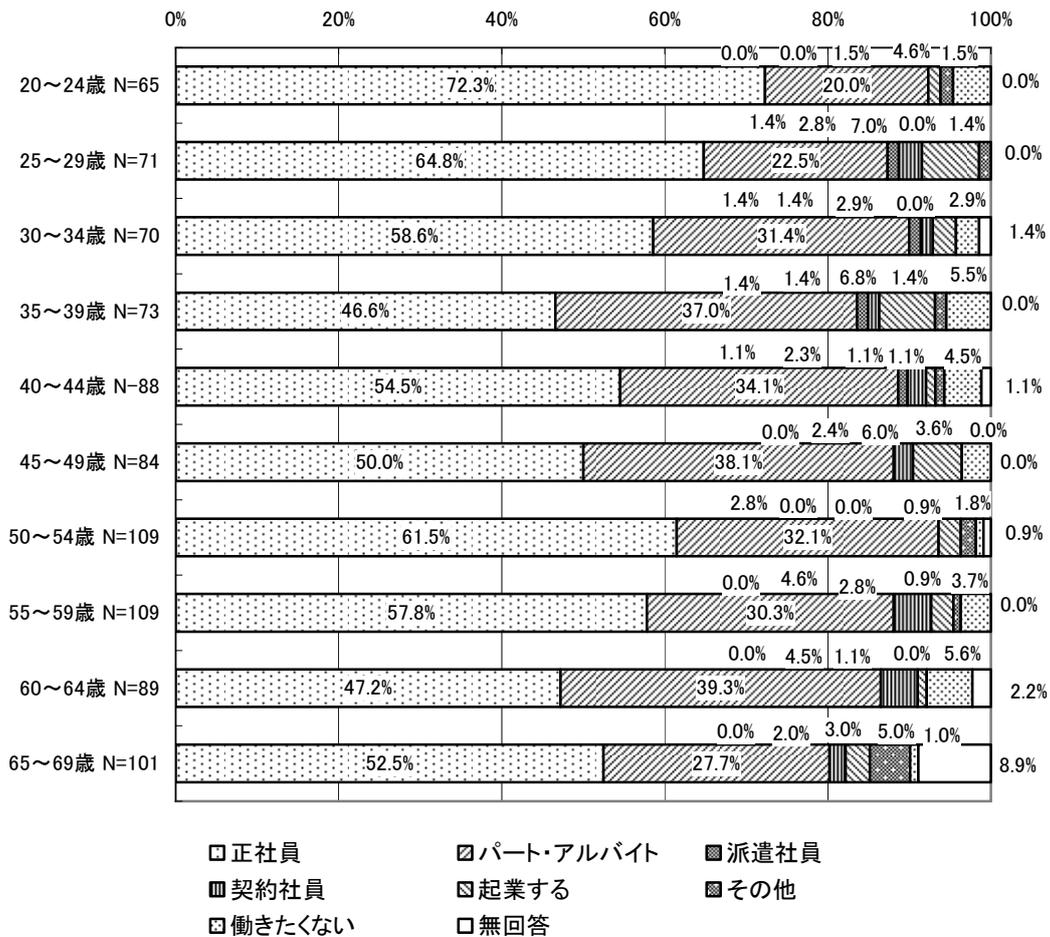
「望ましい働き方」については、「正社員」が 56.2%と最も多く過半数を占め、次いで「パート」が 31.5%と続く。年齢層別にみると、「正社員」は 20 代前半では 72.3%、30 代後半で 46.6%と低下するもののどの年代でも過半数を占める。

望ましい働き方

N=859



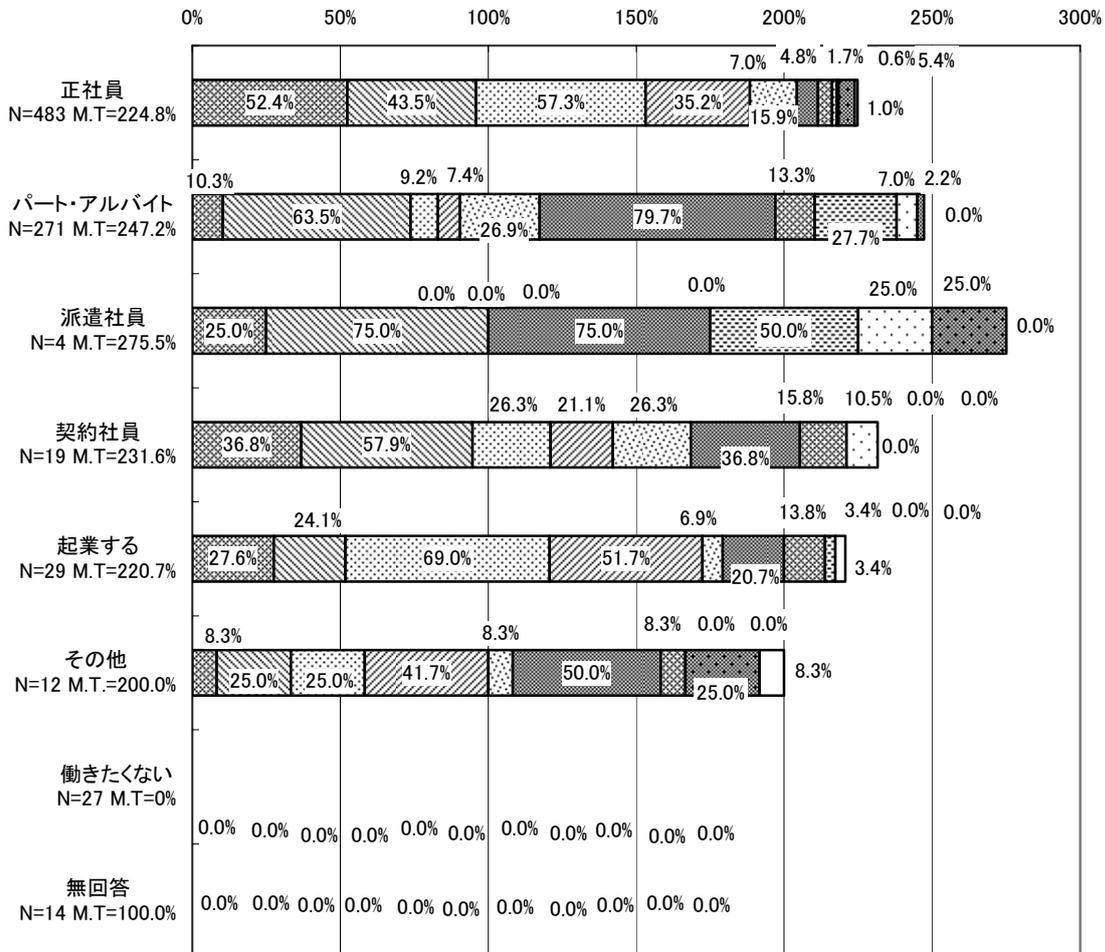
年齢層別望ましい働き方



□望ましい働き方を選ぶ理由

望ましい働き方のうち「正社員」を選ぶ理由は、「仕事にやりがい」（57.3%）、「生計を立てる」（52.4%）である。「パート」を選ぶ理由は、「家事に支障がなく働ける」（79.7%）、「家計を助ける」（63.5%）である。「派遣」を選ぶ理由は、「家計を助けられるから」と「家事に支障がない」が同率（75.0%）である。「起業する」を選ぶ理由は、「仕事にやりがい」（69.0%）と「専門能力発揮」（51.7%）である。

望ましい働き方を選ぶ理由



- 生計を立てるため
- 家計を助けられうから
- 仕事にやりがいがある
- 専門能力が発揮できる
- 友達ができる
- 家事に支障のない時間で働ける
- 仕事以外の活動ができる
- 扶養家族でいられるから非課税限度額以内で働きたい
- 責任が軽いから楽である
- その他
- 無回答

(3) 就業意識からたどる望ましい働きかたと現在の就業形態 (問9)(問11)(問14)

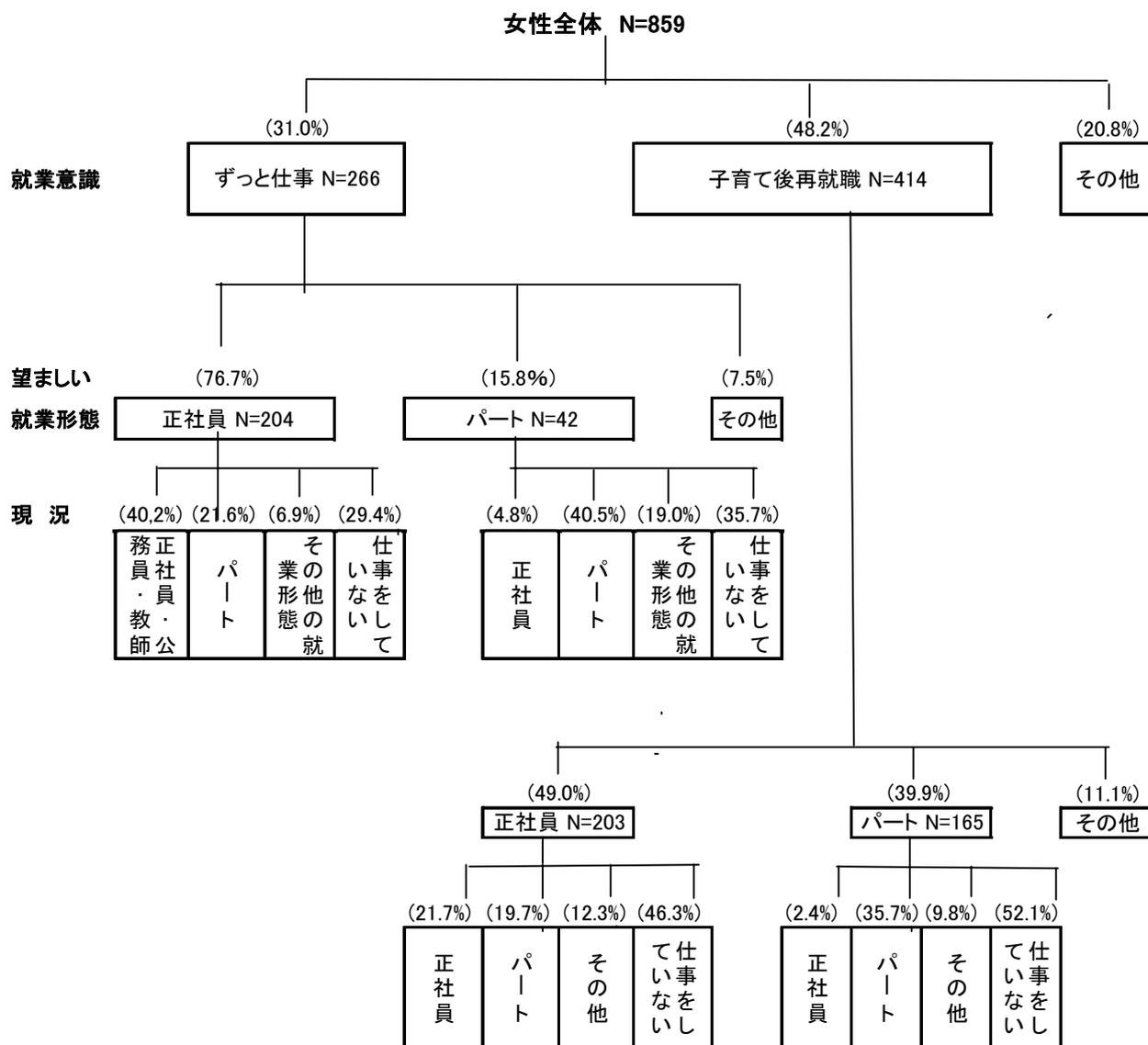
□「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつほうがよい」のなかで「正社員」を「望ましい働き方」とするうち40%が希望通り

「ずっと仕事をもつ」のうちの「正社員」を「望ましい働き方」とするのは76.7%であるが、実際に「正社員」で就労しているのはそのうち40.2%である。「パート」を「望ましい働き方」とするは15.8%であり、実際に「パート」で就労しているのはそのうちの40.5%である。

□「子どもができたら仕事をやめ、大きくなれば再び仕事をもつ方がよい」(子育て後再就職)は

「正社員」希望の21.7%、「パート」希望の35.7%が希望通りの就業形態である。

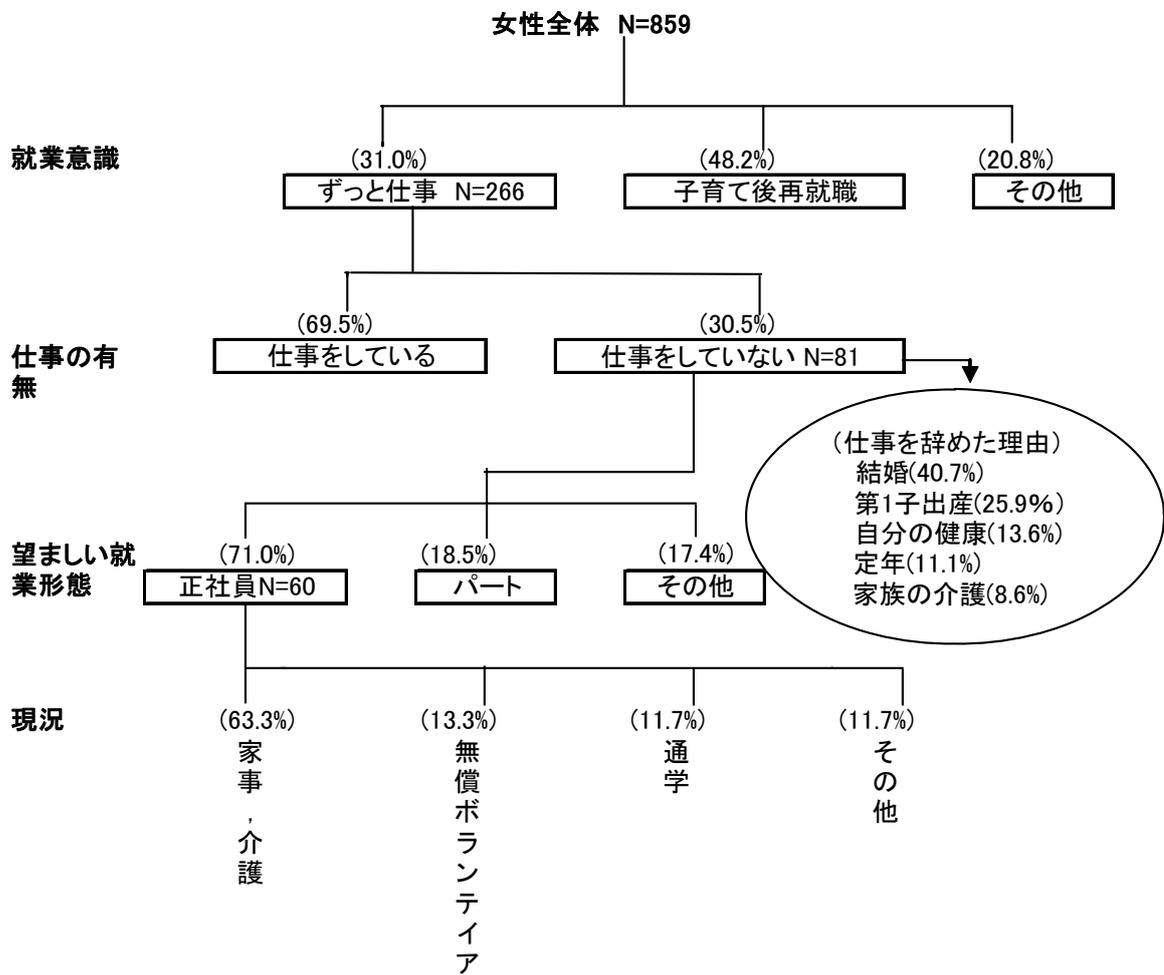
就業意識からたどる望ましい就業形態と現況(1)



□「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつほうがよい」を選んだうちの3割が仕事を「していない」、7割が「している」

仕事を「していない」が30.5%、「している」が69.5%である。「していない」の「仕事を辞めた理由」は「結婚」(40.7%)「第1子出産」(25.9%)「自分の健康」(13.6%)「定年」(11.1%)「家族の介護」(8.6%)である。「していない」のうち「正社員」を「望ましい働き方」とするは74.1%であり、主にしていることは「家事(育児・介護)」(63.3%)、次いで「無償ボランティア」「通学」である。

就業意識からたどる望ましい就業形態と現況(2)

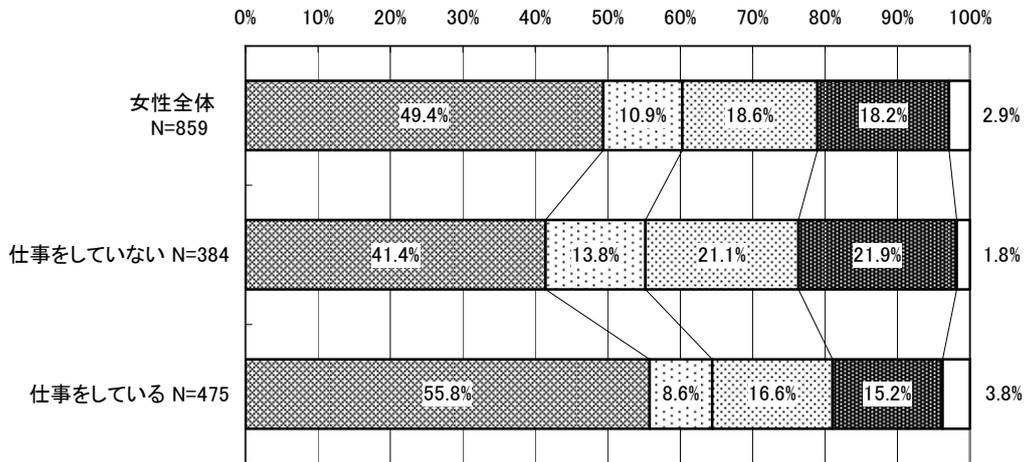


(4)就業状況 (問3)(問13)(問20)

□就業年数は「20年以上」が18.2%、「10～20年未満」が18.6%

全体では「10～20年未満」が18.6%、「20年以上」が18.2%である。仕事を「している」は現在の事業所での勤務年数のみではあるが「1～7年未満」(55.8%)「10～20年未満」(16.6%)「20年以上」(15.2%)である。仕事を「していない」の就業経験年数は「0～7年未満」(41.4%)、「10～20年未満」(21.1%)「20年以上」(21.9%)である。

就業経験年数

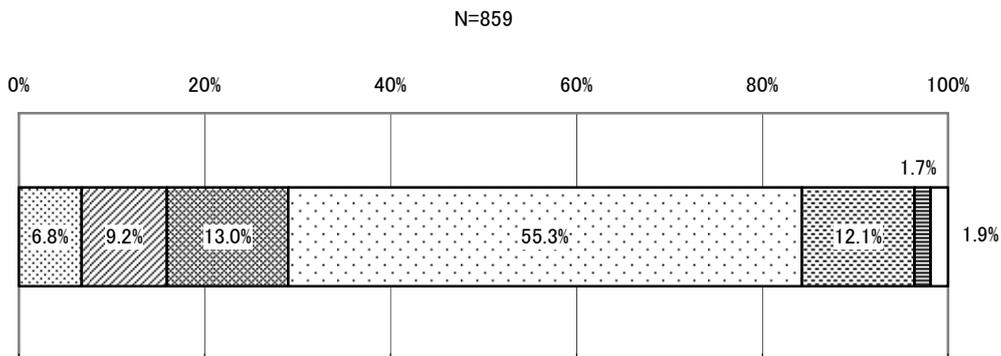


■7年未満 □7～10年未満 ▨10～20年未満 ■20年以上 □無回答

□潜在的労働力率は29.0%

仕事を「していない」の就業希望「すぐにでも働きたい」「将来働きたい」「働く意志があるが働けない」を潜在的労働力人口と考えると、岸和田市の女性の潜在的労働力率は29.0%となる。

就業に対する意識

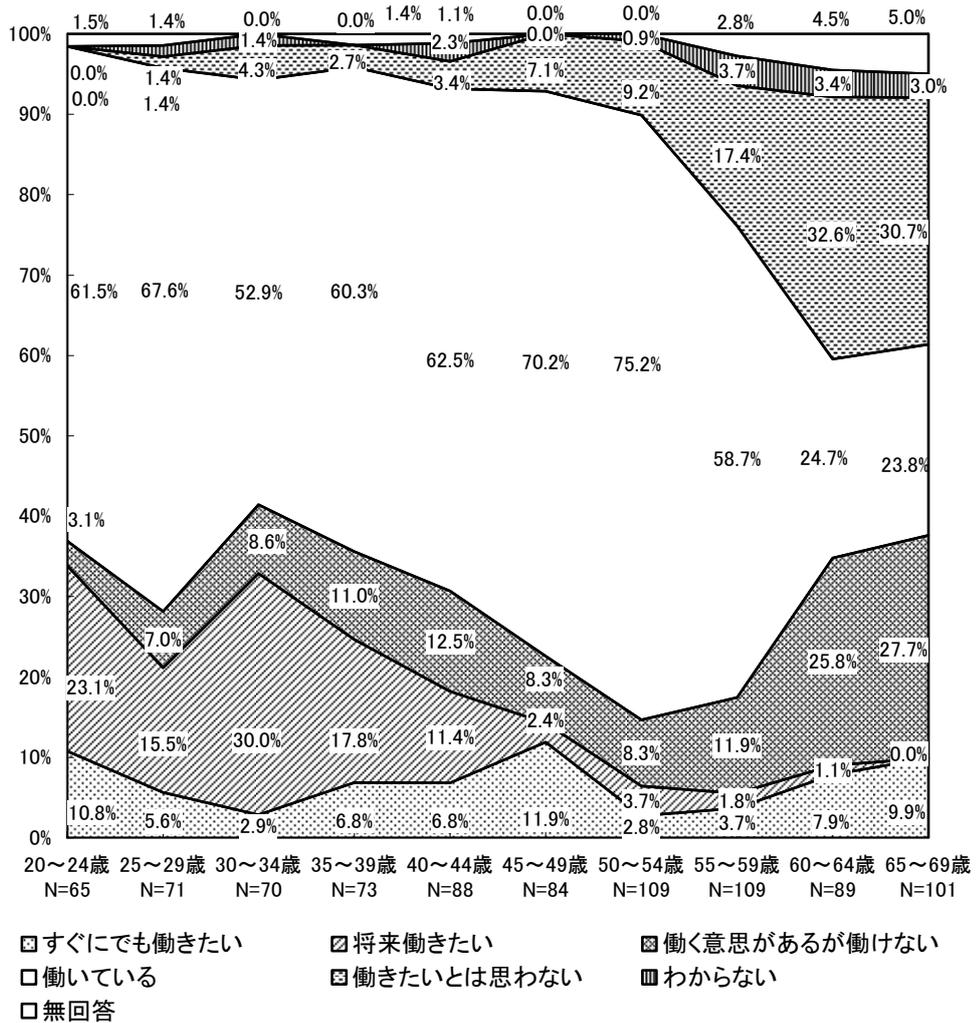


■すぐにでも働きたい ▨将来働きたい ▨働く意志があるが働けない
 □働いている □働きたいとは思わない ■わからない
 □無回答

□潜在的労働力率合わずと労働力率は20代～50代までは8～9割

年齢層別潜在的労働力率は30歳前半が4割で最多である。M字型就労率の谷にあたる年齢層に相当するこの年代は「将来働きたい」が30.0%で最も多い。「働く意思があるが働けない」は30代後半から50代後半まで約1割あり、60代になると2.5割に増加する。「働いている」と「潜在的労働力率」を合わずと20代から50代は8～9割である。60代は7割である。「働きたいとは思わない」「わからない」は20代から40代前半までは0～4%であるが40代後半から50代前半は約1割、50代後半は約2割、60代は約3割に増加する。

年代別就労に対する意識



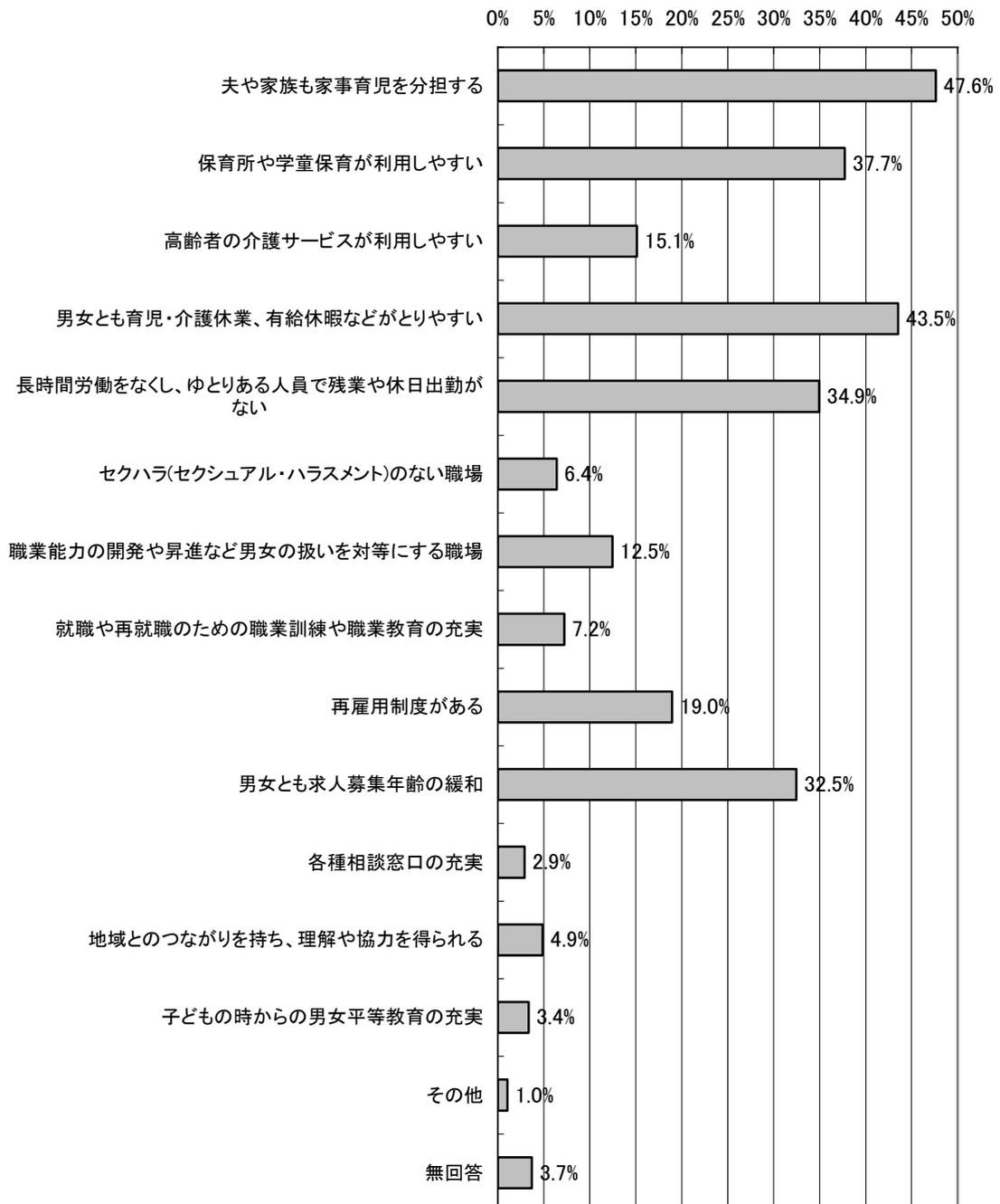
(5) 女性が働きやすい環境づくりの意見から (問 10)

□ 労働環境の整備が最多

「夫や家族も家事育児を分担する」が 47.6%と 5 割弱である。次いで「男女とも育児・介護休業、有給休暇などをとりやすい」(43.5%)「保育所や学童保育が利用しやすい」(37.7%)「長時間労働をなくし、ゆとりある人員で」(34.9%)「男女とも求人募集年齢の緩和」(32.5%)と続く。

女性が働きやすい環境にするためには

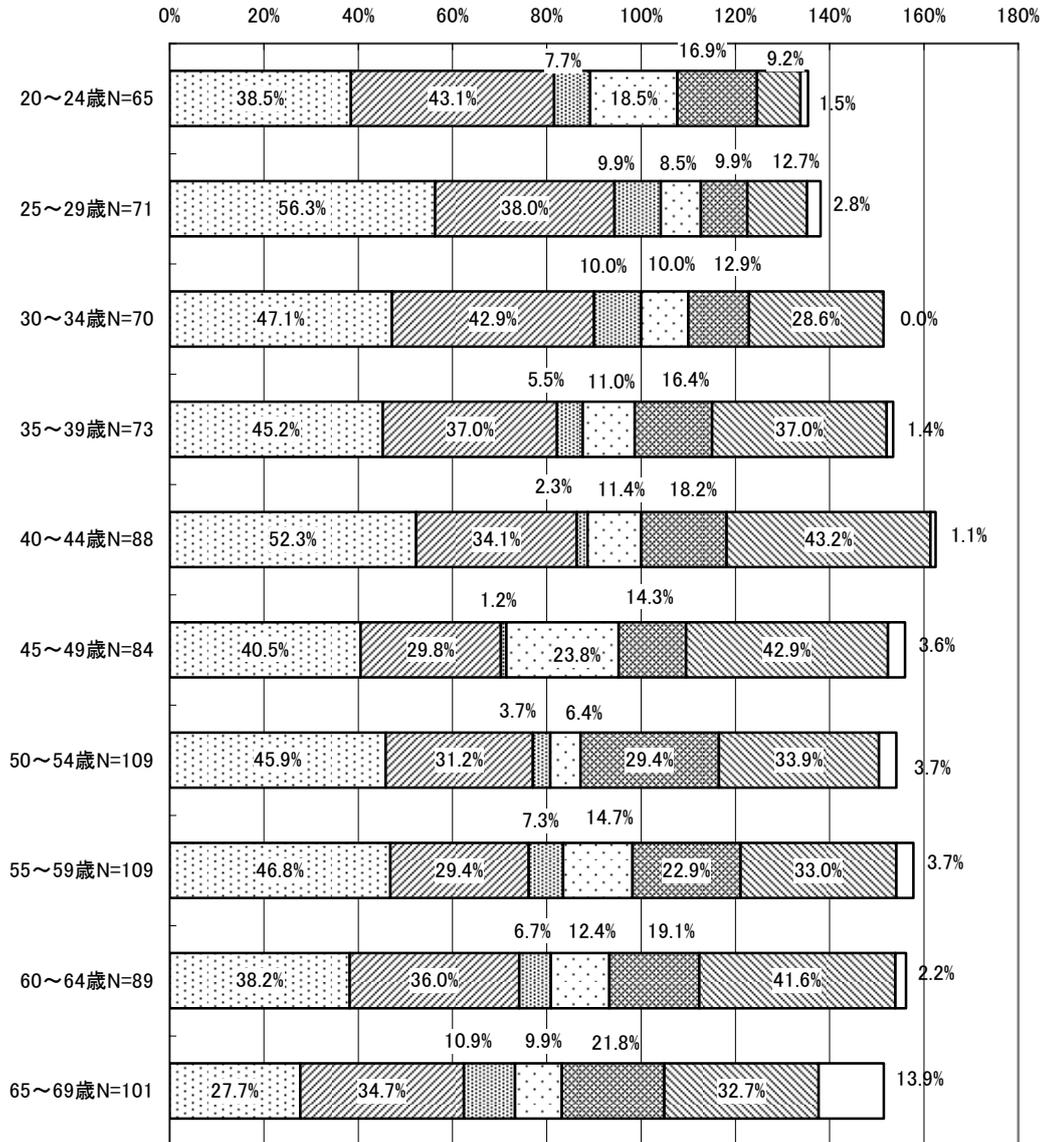
N=859 M.T.=272.7%



□各年代で「育休や有給をとりやすく」が多い

年齢層別にみると20代後半と40代前半で「男女とも育児・介護休業、有給休暇などがとりやすい」が5割を超え、30代、40代後半、50代でも4割を超えている。20代前半、30代前半では「長時間労働をなくし、ゆとりある人員で残業や休日出勤がない」が4割を超えている、40代と60代前半は「男女とも求人募集年齢の緩和」が4割を超えている。

年齢層別女性が働きやすい環境への意見－1

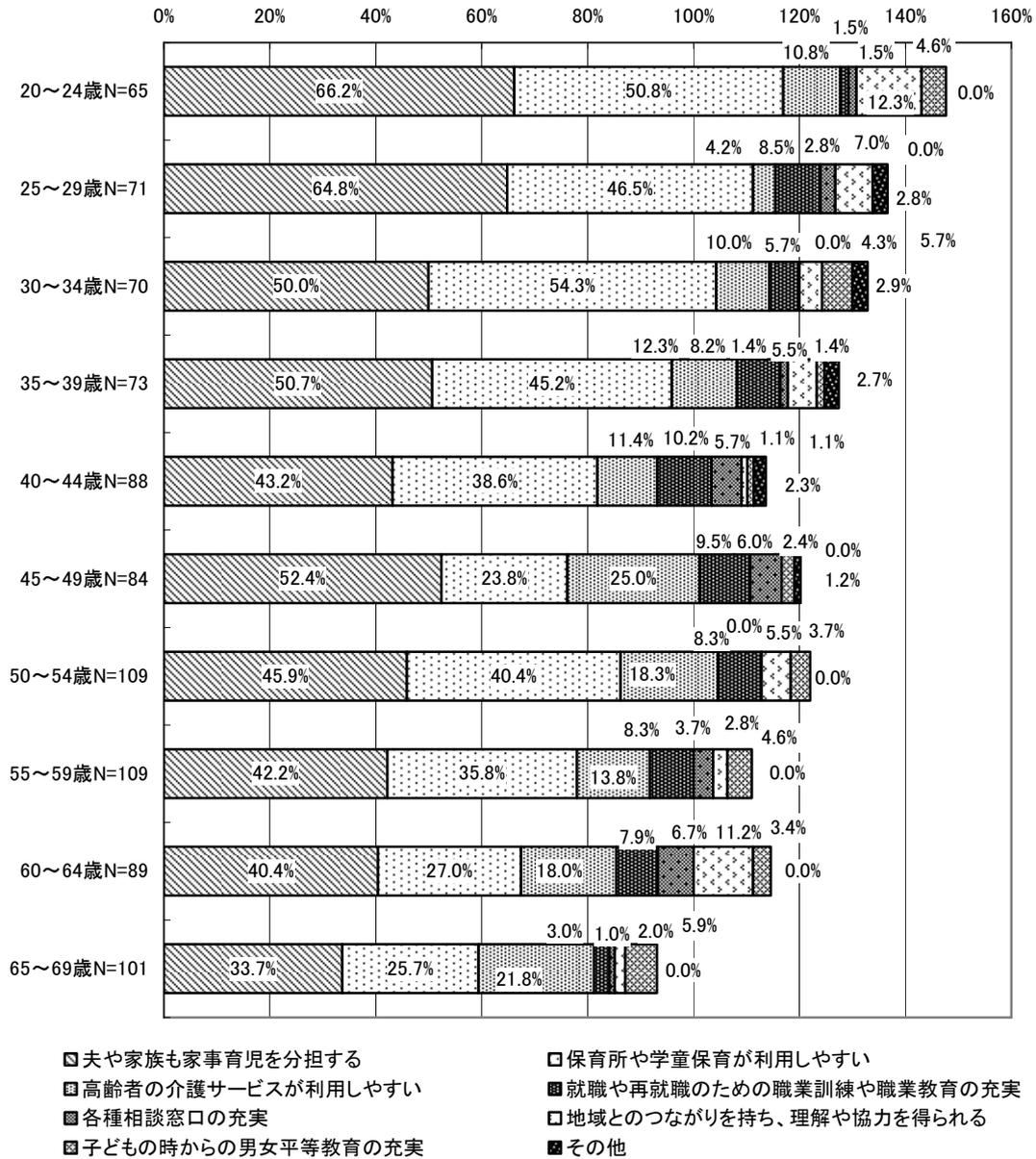


- 男女とも育児・介護休業、有給休暇などがとりやすい
- ▨ 長時間労働をなくし、ゆとりある人員で残業や休日出勤がない
- ▩ セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)のない職場
- 職業能力の開発や昇進など男女の扱いを対等にする職場
- ▩ 再雇用制度がある
- ▨ 男女とも求人募集年齢の緩和
- 無回答

□「夫や家族も家事育児分担」が20代は6割強

「夫や家族も家事・育児を分担する」は20代が6割強、30代が5割である。次いで「保育所や学童保育の利用がしやすい」は、40代後半と60代を除き20～50代まで4割近くから5割強である。

年齢層別女性が働きやすい環境への意見－2（家庭・保育・地域に関して）



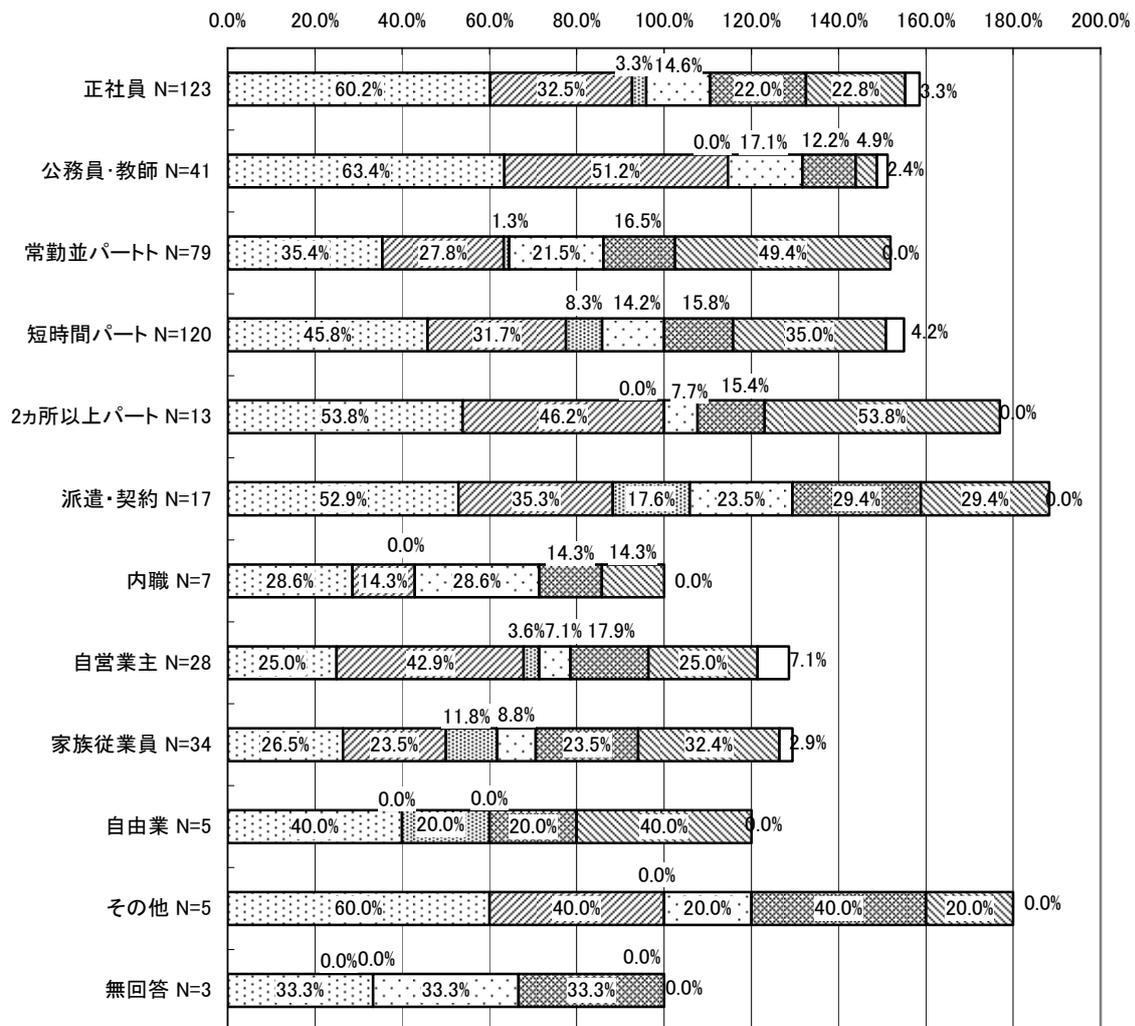
年齢層別女性が働きやすい環境－1・2の M.T.

20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳
283.1%	274.6%	284.3%	280.8%	276.1%	276.2%	276.1%	268.8%	270.8%	244.6%

□「正社員」「公務員・教師」は「男女とも育児・介護休業、有給休暇がとりやすい」を、「2ヵ所以上パート」「常勤並パート」は「求人募集年齢の緩和」を希望

「男女とも育児・介護休業、有給休暇などが取りやすい」は「公務員・教師」(63.4%)が最も多く、次いで「正社員」(60.2%)である。「長時間労働をなくす」では「公務員・教師」(51.2%)「2ヵ所以上パート」(46.2%)「自営業主」(42.9%)の順に多い。「2ヵ所以上パート」「常勤並パート」の約5割が「求人募集年齢の緩和」を望んでいる。

就業形態別女性の働きやすい環境への意見—1(職場環境に関する面について)

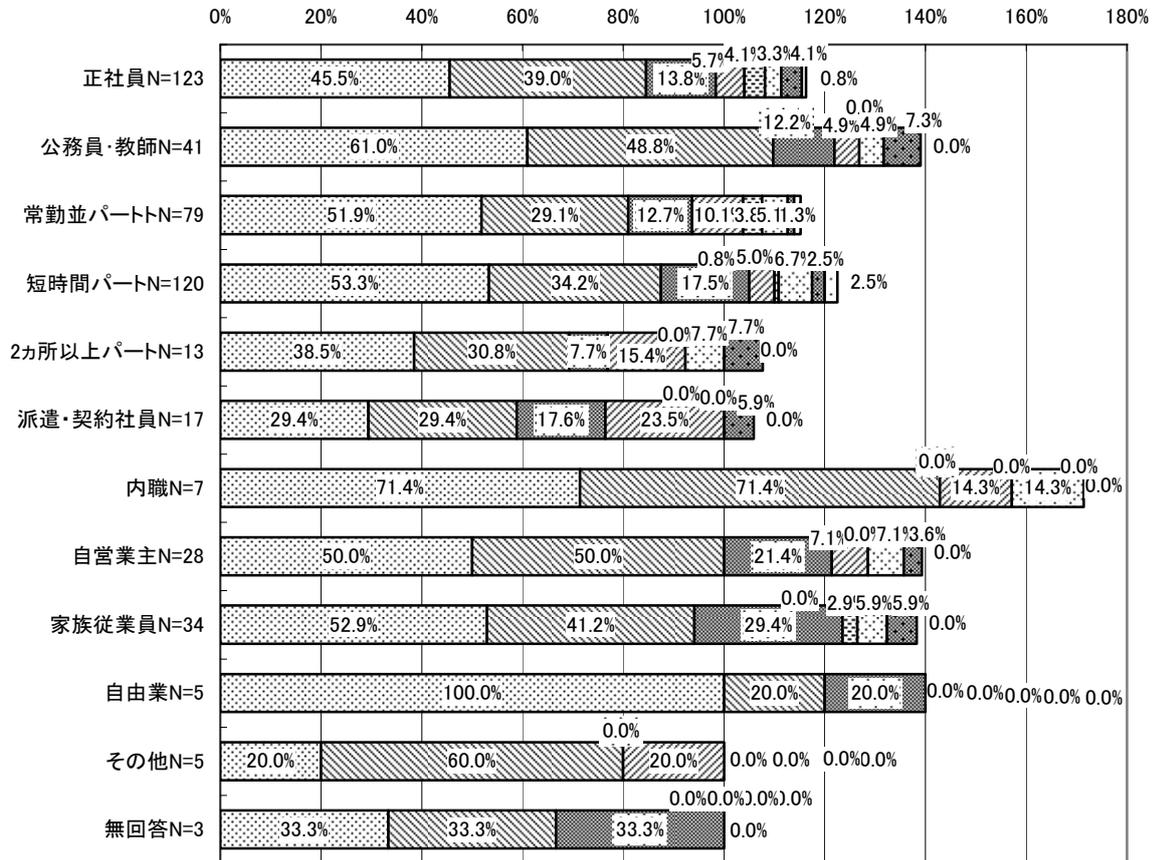


- 男女とも育児・介護休業、有給休暇などがとりやすい
- ▨ 長時間労働をなくし、ゆとりある人員で残業や休日出勤がない
- ▩ セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)のない職場
- ▧ 職業能力の開発や昇進など男女の扱いを対等にする職場
- ▤ 再雇用制度がある
- ▦ 男女とも求人募集年齢の緩和
- 無回答

□「夫や家族も家事育児を分担する」はすべての就業形態に共通の意見

「夫や家族も家事育児を分担する」は「自由業」(100.0%)「内職」(71.4%)「公務員、教師」(61.0%)で、全ての就業形態で高率である。次いで「保育所や学童保育が利用しやすい」が「内職」「自営業主」「公務員、教師」で高率である。

就業形態別女性の働きやすい環境への意見-2(家庭、保育所、地域に関して)



- 夫や家族も家事育児を分担する
- 保育所や学童保育が利用しやすい
- 高齢者の介護サービスが利用しやすい
- 就職や再就職のための職業訓練や職業教育の充実
- 各種相談窓口の充実
- 地域とのつながりを持ち、理解や協力を得られる
- 子どもの時からの男女平等教育の充実
- その他